

地域社会との緊密な連携を築こう

～学校と家庭が連携し、心豊かな浜っ子を育成する～

碧南市立大浜小学校 P T A

1 学区及び学校の概要

本校は碧南市の南部に位置する。学区の南西側には衣浦湾を埋め立てて造られた衣浦臨海工業地域があり、北側には室町時代から続く多数の寺院がある。みりんの製造といった商業も栄え、休みの日には観光客も多数訪れる地にある。全校児童 590 名と中規模の学校で、13%の外国籍の児童も通う国際色豊かな学校である。

2 研究のねらい

子どもたちの健全育成のためには、学校・家庭・地域が手を携え、協力しながら児童の成長に関わり見守ることは不可欠である。その中で、P T Aとして各種学校行事に協力し、学校での児童の実情を知ること、より学校支援に積極的にかかわることができるようにすることをねらいとする。

3 研究の仮説

学校生活における子どもたちに、保護者として関わる機会となる P T A活動を展開することで、学校での子どもたちの姿に関心をもち、積極的に学校支援にあたらうとする意欲を高めることができるだろう。

4 研究の方法

P T A運営委員会を中心に、本校 P T Aの目的である「児童の教育並びに福祉を中心に、学校と家庭が密接な連絡を図り、本校教育の発展に期す」を達成するために有効な活動内容を検討し、学校と協働することで P T A活動を展開する。

5 研究の実践

(1) ネットモラル教室（成人研修委員会の取組）

児童のスマートフォンの所持率は年々増加しており、児童にとっても生活する上で必要不可欠なものになってきている。学校教育においても一人一台タブレットが支給され、学習においても有効な教具として活用されている。同時に、小学校低学年であっても SNS の利用で外部との接触が容易にできてしまい、昨年度は小学 1 年生でも L I N E によるトラブルが起こっている実情がある。そんな中、ネットモラルを学び、ネットによるトラブルの被害者にも加害者にもならないよう学びの場を提供することはとても重要になる。そこで、今年度、P T Aの成人研修委員会の主催で愛知県の委託業者であるスターキャットに依頼し、昨年度まで小学 5、6 年生と保護者を対象としていた講演会を、今年度は小学 3 年生から対象を拡大し、「みんなのネットモラル塾」と題して、正しいスマートフォンの使い方について学んだ。保護者も一緒に参加し、同じ話を聞くこと



【LINE の返信の仕方等を学ぶ児童】

で、家庭でもスマートフォンの使い方について話し合うきっかけづくりにすることができた。

（２）学校新聞発行（文化広報委員会の取組）

文化広報委員会では、12月に発行する学校新聞に、4から6年生の児童のクラブ活動の様子を紹介した。PTAの文化広報委員が児童の姿を写真に収め、児童にインタビューし、新聞原稿を作成した。普段クラブ活動の様子を見る機会がないだけに、保護者の立場からの情報発信は、学校での児童の様子を知ってもらうよい広報活動の機会となった。



【児童にインタビューする保護者】

（３）交通安全教室の補助とあいさつ運動、通学団見守り隊（生活安全委員会の取組）

1、3年生が実施する交通安全教室の補助員としてPTAの生活安全委員が児童の安全な歩行や自転車の乗り方等を見守り、声をかけた。児童との関わりを通して、地域においても児童の様子に気を配ることができるようになった。

また、月一回設定されたあいさつ週間では、児童会の運営委員と学級委員が昇降口に立ち、登校する児童に元気よくあいさつをしている。あいさつ週間の最終日をあいさつ運動の日とし、1年生の保護者も順番に立ち、登校する児童の様子を見守りあいさつ運動に参加した。



【横断歩道の歩行を見守る保護者】

さらに、全PTA会員が年間1回以上、都合のつく日に、通学団の集合場所での児童の様子や通学路での児童の様子を見守っている。本校では、年度初めから5月いっぱいまでは通学団による班別登校、6月からは個別登校をしている。見守り隊活動後には、児童の登校の様子や通学路の危険箇所等気づいたことを報告していただいている。保護者によっては、その場で児童に声をかけ安全に気をつけて登下校できるよう促してくださる方もあり、学校とPTAとが一体となって児童への指導にあたっていることが感じられる。

- しっかりルールを守り安全に登校できていました。
- 集合時刻にはきちんと集まり、グリーンベルト内を一列で歩いていました。1年生の子を大きい子と大きい子で挟んで歩いていて、ほっとしました。
- 班長さんが、何度も振り返り、1年生を気にかけてくれていました。たいへんありがたく、頼もしさを感じました。
- 大通りに出るときに車がきていても班長さんが道路を横断してしまい、他の子も渡らないといけなと思い、後ろの子たちも走って横断していて、車の方が止まってくれる場面がありました。班長さんが渡っても、左右を確認し車がきていたら車が通り過ぎるのを待ち、副班長さんと一緒に渡るように話しました。
- 伊勢の大きい通りに横断歩道があるといいなと思いました。

【通学団見守り隊活動後の保護者の感想・意見】

6 研究の考察

学校行事等に積極的に関わることで、学校での子どもたちの様子を知ることができ、今後も前向きに学校のために協力していこうという気持ちをもつことができた。

7 成果と今後の課題

学校と家庭が手を携え、子どもたちの成長のために取り組んでいくことの大切さに改めて気づくことができた。今年度以上に保護者が学校への関心を高め協力できるようにするためにも、PTAの立場から、参加したことで学べたことを発信しながら、学校行事に多くの保護者に参加してもらえようはたらきかけていきたい。